学校番号	3030

令和８年度　創造探究科

教科	創造探究	科目	高津 LCⅡ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書							
副教材等	課題研究メソッド　2nd Edition　（啓林館）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・課題研究を通して、様々な社会課題を、創造的思考力を駆使して解決していく能力を育成することを目的としています。
・科目別に班を作り、課題研究に取り組みます。課題研究では、自分で立てた“問い”に、答え(＝仮説)を考えて、それが正しいかを事実と論理で検証していき、最終的には口頭での発表や論文の作成に取り組みます。
・授業以上の学びを得るために、大学や研究室、有識者の講演会などに積極的に参加してレポートを作成しましょう。
・副教材として、啓林館「課題研究メソッド 2nd Edition」を使用します。

2　学習の到達目標

（a）探究活動（研究・調査）についての基礎基本となる知識を習得するとともに、研究テーマやその研究手法の設定方法、プレゼンテーションや議論の技術等を身につける。
（b）得た知識・技能を用いて論理的に物事を考え、それを的確に表現する力を養う。特に、実験や資料調査から得られたデータを適切な方法を用いて分析・活用し、批判的に考察し、判断したり他人が見てもわかるように表現したりする力を養う。
（c）倫理的に正しく研究を行う姿勢を養うことを前提とし、自ら積極的に課題設定や実験、資料調査等を行い、粘り強く理論的に考え、根拠に基づいて判断しようとする態度を養う。また、設定した課題の解決案の策定に取り組む中で、その内容の振り返りや考察を深め、改善したりしようとする態度や創造性を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	研究テーマ設定や研究倫理、先行研究の調査方法、研究手法の設定といった内容を理解し、それらをもとに研究を進めることができている。	授業で得た知識・技能を使い、研究の仮説、序論、研究方法、結果・考察、要旨、発表資料を作成することができ、それらを用いてプレゼンテーションを行うことができている。	研究ノートを班で作成することで研究を正しく行おうとする意識があり、班での活動や発表に積極的に取り組むことができている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	研究基礎	テーマ設定 先行研究調査	a:テーマについて、定義を明確にし、関連する事象も含め理解でき、課題を発見している。また、適切な研究・調査方法を追求し、精度の高い結果が得られるように活用している。 b:信頼性の高い資料を使用し、情報元を正確に記録できる。 c:班内もしくは同じ科目内で建設的な意見交換ができる。	序論 ﾜｰｸｼｰﾄ	序論	研究ノート
	調査・研究	文献調査 実験	a 先行研究の課題を明らかにした上で、自身の研究を的確に位置づけている。 b:自分たちの考えを仮説等に反映することができる。 c:研究ノートを適切に管理し、班員と協力して全ての活動内容を記載する。	仮説 ﾜｰｸｼｰﾄ	仮説	研究ノート
後期	調査・研究	文献調査 実験 結果分析 考察	a:テーマについて、定義を明確にし、関連する事象も含め理解でき、課題を発見している。また、適切な研究・調査方法を追求し、精度の高い結果が得られるように活用して、研究ノートにも記録している。 c:研究ノートを適切に管理し、班員と協力して全ての活動内容を記載する。	研究ノート		研究ノート
	研究展開	文献調査 追実験 結果分析 考察 まとめ 要旨作成	a: 収集した資料やデータを解釈・分析するため、適切な図やグラフを作成し、要旨を作成できる。 b:複数の根拠に基づいて、論理的な飛躍もなく分析・まとめを展開し、示すことができる。 c:研究ノートを適切に管理し、班員と協力して全ての活動内容を記載する。	要旨	要旨	研究ノート
	発表	発表資料作成 発表	a:発表資料を、図やグラフなどを用いて見やすく構成することができる。 b:発表における工夫があり、聴衆をひきつけることができる。 c:資料の作成や発表に積極的に関わることができる。	発表スライド	発表スライド 発表	研究ノート 発表

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度